

表-2

出 来 形 管 理 基 準

構造物の種類	項目	基準	最小許容量	最大許容量	測定基準	測定箇所	備考
コンクリートダム(本ダム、副ダム、側壁、水叩き)	基準高 ▽	±5			図面の表示箇所で測定。		①単位はcm ②設計図(構造図、標準図、模式図等)に表示してある箇所を測定する。 ③個々の測定値が基準を超えた場合でも機能、構造上支障がないと認められる場合には承認することができる。 ④この基準により難しい場合は、監督職員の指示による。
	高さ h	-3					
	幅(厚さ) w, t	-3					
	堤長 L	L/300	-5	-15			
	のり勾配	±0.2分					
	上流側埋戻高さ	-3					
その他コンクリート構造物	基準高 ▽	±5			図面の表示箇所で測定。断面、形状等の変化点毎に測定する。		
	高さ h	h < 3m	-5				
		h ≥ 3m	-10				
	幅(厚さ) w	-3					
	長さ L	L/300	-5	-15			
のり勾配	±0.2分						
積(張)石構造物	基準高 ▽	±5			図面の表示箇所で測定。断面、形状等の変化点毎で測定する。		
	高さ h	-5					
	長さ L	L/100	-5	-20			
	のり勾配	±0.3分					
	幅(厚さ) t	t1	-3				
t2		-3					

表-2

出 来 形 管 理 基 準

構造物の種類	項目	基準	最小許容量	最大許容量	測定基準	測定箇所	備考	
鋼製ダム(スリットタイプ)	堤長 L 格子形	±5						
	堤長 l 格子形・B型	±(1+l/100)						
	堤幅 w 格子形	±3						
	堤幅 w 格子形・B型	±(1+w/100)						
	堤幅 w A型	±0.5						
	高さ H 格子形・B型	±(1+H/100)						
	高さ H A型	±0.5						
鋼製構造物(鋼製ダム(スリットタイプ)を除く)	幅(厚さ) w	-5						
	長さ L	L/300	-5	-15				
	のり勾配	±0.2分						
	高さ h	-5					鋼製ダム(枠エタイプ)は図面の表示箇所にて測定。	
木製構造物(建築物を除く)	長さ L	L/50	-10	-40				
	幅(厚さ) w	-5						
	のり勾配	±0.5分						
	高さ h	-10						
植生等の工種(土のう、芝、筋工類)	長さ L	L/50	-10	-40	全箇所 延長40m毎に1箇所の割合で測定する。40m以下の場合は2箇所測定する。			
	幅 w	-5						
植生等の工種(伏工、吹付工類)	法長 SL	SL < 5m	-20		全測点 面積で管理する場合の規格値は、-2%以内とする。			
		SL ≥ 5m	-4%					
	延長 l	-20						
	厚さ t	t < 5m	-10					厚層基材又は客土吹付等の厚さを管理する場合の規格値は、200m2に1箇所の割合で測定して、その平均値以上とする。
		t ≥ 5m	-20					
植被率	70%以上			1000m2に1箇所の割合				

表-2

出来形管理基準

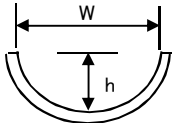
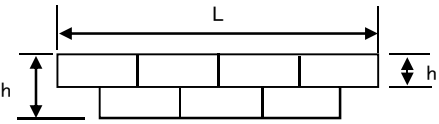
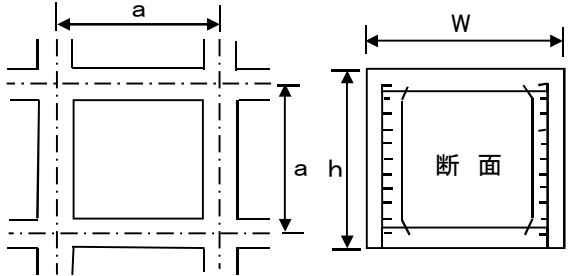
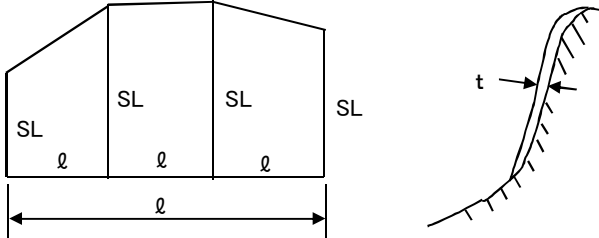
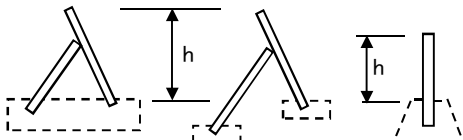
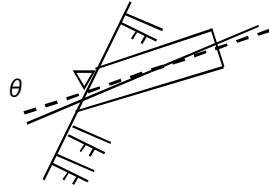
構造物の種類	項目	基準	最小許容量	最大許容量	測定基準	測定箇所	備考
山腹水路工	幅 w	-10			施工延長20m毎に1箇所測定。		
	深さ h	-5					
	延長	-20			全延長		
鉄線籠等構造物	幅(厚さ)	-5			延長は全箇所高さ又は径については段数及び長さの異なる毎に測定する。また、同一段数及び長さの延長が20mを超える場合は、20m毎に測定する。なお、各個の寸法については全個数の10%程度とする。		
	高さ h (のり長)	L/50	-10	-20			
	長さ L	L/50	-10	-30			
法枠工	法長 ℓ	$\ell < 10\text{m}$	-10		断面、形状等の変化点毎で測定する。		
		$\ell \geq 10\text{m}$	-20				
	幅 w	-3					
	高さ h	-3					
	吹付枠中心間隔 a	± 10					
延長 L	-20			1施工箇所毎			
吹付工 (コンクリート) (モルタル)	区間長 ℓ	-20			全箇所吹付厚確認用測定ピン等により確認する。200m ² に1箇所の割合でコアー又はさく孔により測定する。吹付面の凹凸が著しい場合の最小吹付は、設計厚の50%以上とする。測定した厚さの平均値は設計厚以上とする。面積で管理する場合の規格値は設計値以上とする。		
	法長 SL	$SL < 3\text{m}$	-5				
		$SL \geq 3\text{m}$	-10				
	厚さ t	$t < 5\text{cm}$	-1				
$t \geq 5\text{cm}$		-2					
落石防止柵工、なだれ予防柵工等	基準高 ∇	± 5			図面の表示箇所測定。		
	長さ L	L/300	-5	-15	コンクリート基礎がある場合は、その他のコンクリート構造物による。		
	高さ h	-3					
集排水ボーリング	基準高 ∇	± 10			全数測定。		
	方向	± 1 度					
	傾斜角 θ	± 1 度					
	長さ	設計値以上					

表-2

出来形管理基準

構造物の種類	項目	基準	最小許容量	最大許容量	測定基準	測定箇所	備考	
集水井工	基準高 ▽	±5			全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。			
	偏心量 d	15						
	長さ L	-10						
	巻立て幅 w	-5						
	巻立て厚さ t	-3						
抑止アンカー工	掘削深さ	設計値以上			全数			
	配置誤差 d	10						
	せん孔方向	±1度						
杭工	基準高 ▽	±5			全数について杭中心で測定。			
	根入長	設計値以上						
	偏心量 d	D/4以内かつ 10以内						
ブロック工	基準高 ▽	層積	±30		施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1箇所、延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2箇所。 幅、厚さは40個につき1箇所測定。			
		乱積	±t/2					
	厚さ t	-2						
	幅 W1 W2	層積	-2					
		乱積	-t/2					
	延長 L1 L2	層積	-20					
乱積		-t/2						
歩道	延長	設計値以上			全延長			
	幅員	設計値以上			50m毎に測定			